

平成13年9月30日（日）

第27回 越谷市民まつり

越谷市郷土研究会 展示出品紹介

《奥州街道400年記念》

『間久里のウナギは旨かった？』
高崎 力

『砂利道供養塔（蒲生一丁目）』
高橋 正澄





あきたの
秋田屋

草葺屋根(手前)・「秋田屋」
トタン屋根(奥)・調理場及び座敷
解体前の和風の庭園より撮影
(昭和39年11月・高崎 力撮影)



しゅうでんろ
看板『秋田屋』

秋田藩の佐竹公が命名
草葺屋根の正面入口に掲示
(昭和39年11月・高崎力撮影)

間久里のウナギは旨かった？

高崎 力

宿場町と宿場町の中程に旅人の休息や食事などの便宜の為に発生したのが立場(たてば)です。越ヶ谷宿と粕壁宿の中程の間久里もそれです。間久里の立場は小さく、蕎麦屋・餅屋・白酒屋・豆腐屋などの他に川魚を提供する料理茶屋が三軒程あり、街道筋に知られていました。

水戸より秋田に転封された佐竹の殿様は、特に秋田屋のウナギにぞっこんで、秋田産のひば材で自分専用の座敷まで造作し、参勤交代時には必ず立ち寄って蒲焼きを食べました。

越ヶ谷町の天下様とまで呼ばれた豪商塩屋吉兵衛宅に江戸からの客人あり、大林の螢、大相撲不動、築比地の桃を見て間久里に立ち寄りウナギを食したが、「江戸の味に劣る」といいました。吉兵衛は笑って「間久里のウナギは江戸人の舌には向かない」といって自宅で蒲焼きを調理味付けをして客人に進せたといっています。

「砂利道供養塔」(蒲生二丁目)について

高橋 正澄

日光道中蒲生茶屋通り、旧大熊仁兵衛屋敷の一角に、鳥または河童のような石仏を戴いた「砂利道供養塔」が立っている。

地元では、この得たいの知れぬ石仏を「ぎょうだい様」「おかま様」「行者様」と称している。その正体は、今もって不明である。

この供養塔は、宝暦七年丁丑六月(一七五七)に日光道の普請完了を記念して造立されたものである。塔の右面には、造塔者として、常州大泉村・神谷藤左衛門、野州田野村・添谷源左衛門、総州古河・高橋喜兵次、江戸芝片門前・南部屋八十次、江戸八丁堀・新井七兵衛、瓦曾根・中村彦左衛門、登戸・浜野徳左衛門、四条・飯島久兵衛、蒲生・中野弥三郎、願主・大熊仁兵衛の銘が刻まれている。

左面から裏面にかけて、普請に参加した八条領をはじめとする周辺各領の村々、食糧を支援した町村の銘が記されている。

石工は、金右衛門新田の竹田平八である。

このことから、この普請が、いかに大規模であったかがわかると同時に、大事を成した先人の安堵や日光道、旅人への思いが伝わってくるような気がする。

現在、「ぎょうだい様」は、足腰の病いに「利益があるということから、地元信者によって、草履・草鞋などが供えられ、供養されている。

奥州街道400年記念

「ぎょうだいさま」

